

伊藤嘉浩 著 (2021)

『ビジネスモデル創造企業』

(中央経済社、全408頁)

長岡技術科学大学大学院教授

伊藤 嘉浩

今日、企業経営や地域経済における市場創造のためにビジネスモデルが非常に重要なことはだれもが理解している。特に、現在のコロナ渦では、ほとんどの業界の多くの企業がビジネスモデルの変革を求められている。本書『ビジネスモデル創造企業』(中央経済社、2021年9月、全408頁)は、このような社会の大きな経営問題を解決する豊富な知見を提供するという挑戦を行った、私の3冊目の学術専門書であり、9年間に及ぶビジネスモデル戦略とビジネスモデル・イノベーションの研究の集大成である。

本書では、企業、組織、地域が優れたビジネスモデルを創造して、市場を創造するための理論とマネジメントについて、事例研究を主に用いて記述・分析した。第一部のビジネスモデルの多角的分析に続き、第二部ではビジネスモデルの競争分析について、国際ビジネス論の視点からビジネスモデルのローカライゼーションと、プラットフォーム戦略の視点からニューレイヤー戦略という新しい理論を提案した。第三部のビジネスモデル・イノベーションでは、事前に意図した計画だけでなく、事後に現場から創造される創発的ビジネスモデルという独自概念とその分析枠組みを提示して一貫して検証し、有用な理論構築を行っており、学術的独自性はとても高い。

また、企業でのITビジネスやプラットフォームのビジネスモデルをはじめ、地域のとげぬき地蔵に関するビジネスから広範囲に及ぶふるさと納税まで、企業経営者など関係者94名への詳細なインタビューを用いた膨大なフィールドワークに基づく多様で豊富な事例の調査分析に加え、筆者の希有な実務経験



による参与観察事例も加えている。適時、アンケート調査を用いた分析と数理的理論を用いた基礎的分析も行って、議論を深めている。

さらに、経営学分野では他に全く類を見ない、

本学会誌や『一橋ビジネスレビュー』などの有力学術雑誌の査読付き論文14編の内容を大幅に加筆して再編集した極めて質の高い本篇とともに、読者に興味深いコラムを豊富に設けている。原稿全体は、KDDI財団の東京大学や京都大学などの大学教授らによる委員会の厳しい審査に合格して同財団の著書出版助成を受賞している。」

この第3部では、本書の中核をなす創発的ビジネスモデルという独自概念と分析枠組みを複数事例により検証していき、最終的に独自のプロセス理論を構築した。従来の戦略計画の研究においては、事前の計画が重要か、それとも事後の学習による創発のどちらが重要かという議論が長年行われてきた。これに対して、本書は、複雑な事業戦略であるビジネスモデルの戦略においては、これらの両者が重要であるだけでなく、さらにこれらの両者を統合するメカニズムが存在することを示し、さらのその詳細なプロセス理論を独自に構築した。つまり、経営戦略計画プロセス、すなわちビジネスプランニングの研究における革新的研究成果である。

さて、このような本書は出版から約1年間経過して、既に広い分野の多くの新聞、ビジネス雑誌、専門雑誌で書評や推薦紹介記事が掲載されてとても好評である。大学図書館への学術書受け入れの指標であるCiNiiの登録大学数についても、2022年12月時点で既に74の大学図書館に登録されており、広く学界で受け入れられつつある。是非、皆さまに本書を読んで頂きたい。(了)